

★わたしの意見

「福祉二年」への 期待

伊藤 隆二

〈神戸大学教育学部助教授〉



もう一〇年ほど前のことである。ある雑誌社が「あなたは日本のどこに永住したいですか」という調査をしていた。その結果、予想に違わず、神戸が第一位にランクされていたのを確めた私は、してやったりと、ひとり悦に入ったものだった。

六甲山と瀬戸内海にはさまれた、この景勝の都市・神戸も、しかし、時代の流れから逸れた日本の桃源郷ではあり得ないようだ。植物生態学の研究者によると、六甲山の草木は確実に破滅の方向にむかっているというし、水産学の関係者は瀬戸内海は死の海の一步手前にあることを警告している。環境の破壊はそこに住む自然系の一つである人間をも蝕むことは、必然のなりゆきというものであろう。

だれが言い出したのか、寡聞にしてきかねが、今年は「福祉元年」だったということだ。福祉というと大抵の人は、すぐひとり暮らしの老人とか障害者への慈善を連想する。福祉元年とは、このような弱い立場にある人たちの真の幸せの実現をめざした最初の年だという意味なのだろう。確かに政治家も市民も「福祉」ということばを口にするが多くなった。老人や障害者への経済面の保障も、少しは改善された。このような傾向はすべて間違っているとは言えぬが、福祉を限られた人たちの問題の解決の具にするのは狭隘すぎる。

永住地として、多くの人たちが神戸を選んだのは、この都市が太陽、空気、みどり、水という人間の生存に不可欠な四つの要素に恵まれていることだけではなく、そこに住む市民一人ひとりのきめ細やかな思いやりの情に打たれたことによると、私は信じている。それはアンケートに回答を寄せた人たちの声でも裏づけられていたと記憶している。

「福祉二年」はすべての人が思いやりの心を通い合わせ、そんな社会づくりへの第一歩であってほしいものだ。神戸をその第一のモデルにすることは、神戸市民の義務だと、私は思っている。



●三宮の楽しいショッピング・オフィス街への出勤に

末積カーポートビル

近代的な
立体駐車場
150台OK



●普通車30分＝¥100

スピーディな駐車 親切な応待ー

■冷房完備・TV付の

待ち合い室もあります。

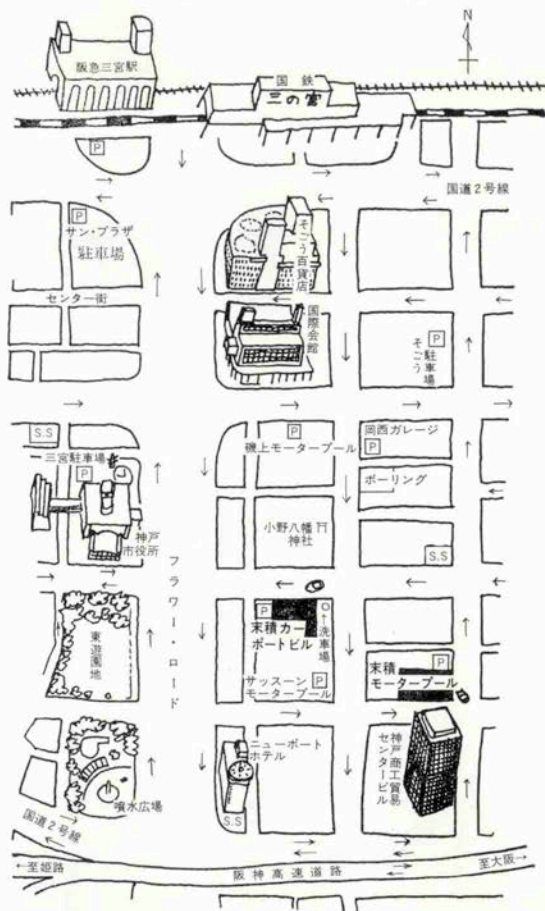
■あさ8時——よる10時(日・祭日営業)



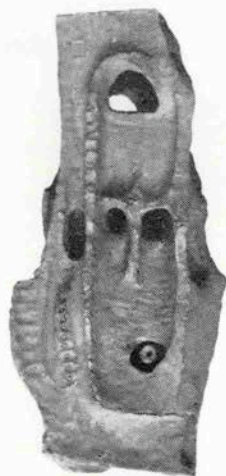
末積株式会社

神戸市葺合区磯辺通4丁目6番地ノ2

TEL 078 (221) 9 8 8 7



随想三題



(雲水の顔／藤本敬八郎)

ところかわ
れば……

藤本敬八郎

〈彫刻家〉



一九七三年夏

こちら日本国、K市、人口約十五万、近くに工業地帯有

「可燃焼物はできるだけ各家庭で焼却して塵芥の量を少なくするのにご協力ください。いま当市では二十台のゴミトラックが毎日フル運転をしています。塵芥の焼却炉は只今当市清掃局認可の△△工業の○○型をお奨めいたします。

只今申し込みされる方には市価の二割五分引きで斡旋いたしております。」こんなビラが隣保の回覧板などにのっかって各家庭に配布されたからといって、いまの日本では誰もいぶかし氣に思ったり、憤慨する者はいないだろう。「尚市街地等で空地、庭のないご家庭や商店では街路の隅を利用し、また学校、病院、寮、工場等の大世帯の場合は敷地内の片隅に××型の新製品が能率的です。いずれも火の始末を充分にご注意ください。」

この宣伝文のモデルが実際に手許にあるわけではない。当方の創作である。

一九七三年夏

こちら米国、S市、人口約四十五万、郊外に大形組立工場有美しい住宅地域として有名

「モシモシ、警察署ですか？
こちら○○地区△△街××番地附近ですが、いま近所のおかみさんが庭でものを燃やしています。どうも塵芥の類です。」

「ご通報ありがとうございます。すぐ現場に急行します。」

数分後にスマートな色に包まれたパトロールカーから二名の警官が降りる。問題のご婦人との対話はこんな具合である。

「グッドモーニング、マーム。」
「はなはだ慇懃である。この慇懃さが一種の圧力になって制服から滲み出る。」

「われら市民の空気は、われわれ一人ひとりが注意をして汚さないようにしなければなりません。しかしあなたのこの行為はわが町の空気を汚すのに充分な行為であることを、あなたは気付きませんか？ 汚染された空気は台所洗剤で洗っても決して美しくすることはできません。ゴミは総てギャベジカンにたたきこんでください。処理はギャベジメンがやるのです。あなたではありません！」
「今後充分に注意し、ギャベジメンの仕事を手放しはしません。」
「ということて釈放されることもあるが、罰金をかせられることもある。」

再び、こちらは日本国

光化学スモッグの発生が予想されますので、午後からの演技をくりあげる場合があります。』ある小学校の運動会プログラムより抜粋。

再び、こちら米国

この部屋を悪魔の煙で汚さないでノ私のかわいい小鳥のために。

（筆者は一九七二年より七三年まで米国ワシントン州シアトル市で美術教育指導のため渡米。）

神戸文化ホール

開店記

山本 寿治

〈神戸文化ホール事業課長〉



「エライ変ったところへ行きまんねやなア」

下水道から文化ホールへ異動した当初、まあそれ位の感想だった。

「これはエライとこへ来た。大丈夫かいな」

四日程すると恐慌状態。ホールにまつわる故事来歴を詰めこま

れ、注意かくあれ、さらにふりかかる当面の雑事。とにかく、のべつまくなしに耳のそばでワンサカワイワイわめかっているような落着かない気持ち。三時頃、遅ひる食べて、太目のうどんが左乳の下につかえるような痛みも心配になる。

神戸市初めての分野だけに、ニワカ編成の運営スタッフの四月からの生理的状況はこんなところだった。中でも辛酸をなめたのは、舞台スタッフだった。ライトも迫りもどん帳も見るのは初めてというフレッシュマン、電車の修理をしていた機械屋さん。

彼らは、詰め込み研修と錯綜する突貫建設工事の合間のリハールに、神戸市初の舞台公務員に成長させられた。

「好きにならんとでけへんで」「練習に来るのはタマやけど、こっちは毎日や。全精力注ぎこんだらモタへん」

「記念式典とちったら、あとなんぼがんばってもアカンさかい、小便チビル思いで固うなりまし」

徒弟制度の内弟子みたいに出演者と夜明けまで納得行くまでつきあうわけにはいかない。経常的な勤務活動と芸術活動の妥協点が、変則勤務を続けられる重要なポイントになる。

「10時でつせエヤメテもらいます。」

情容赦なく、解放を要求いたしております。

ホール自体の人氣は、きわめて上々、貸館実績もますます。

わけでも一同感激した印象的なお便りは、車椅子でベートーベンを聞いた闘病20年の人からのハガキだった。「ステレオ、テレビでしか聞けなかった者にとってあの臨場感、迫力、色彩いずれも比べるべくもない。特に（運命）のエンディングでは、全身が打ち震えるのをどうすることもできなかった」

半月に及んだ前代未聞、長丁場の開館記念公演でいろいろ勉強もした。

「走らないでください。アブないですよ。十分お席ございますから」このセリフを開門ごとに何百遍も繰りかえした。無人の広い座席目ざして走るのである。

こうしたファッショ的傾向は、観客動員率でもみられる。文芸講演会は、一〇〇人に一人しか来ない。歌舞伎、女の一生、NHK生放送なら九割近くやって来る。名前の知られてないものは、いくらだでもやって来ない。

「五万人も文化ホールに来たけれど、ゼニだしたらナンボ来るやろかエライことのでつせエ」

「まあ半分も来ませんデエ」

「だし物さえよかったら、そろ来まっせエ」

「エライこっちゃ、毎日切符売りするんかいな」

「アイデアも欲しいがゲンブツの支援をお願いしやなあきまへんな」というようなことになります。

旅とファッション

砂川 松枝

〈デザイナー〉



旅なれると、旅ぐせがついてしまつて、無計画にブイッと日本を離れることが昨今多くなつた、そのために他の事はすいぶん犠牲にしてしまう私。

あれは暮も押しつまつた日、あわただしく羽田を発つて北廻りでロンドンに飛んだことがあります。二、三日ロンドンに居て車で南イギリス方面を廻ることにしました。本当は嵐ヶ丘を見たいと思つていたのですが、北部は雪のため冬場は無理なのであきらめて、ロンドンファッションの発祥地であつたと言われるパースの街に向つたのです。

案内書によるとパースはイギリスでは一番古い温泉地で、ローマがイギリスに侵入してすぐ（紀元五四年）に作られ、アクアスリスと呼ばれていたとか……現在も立派なローマ風呂が青い湯をたたえていました。ヨーロッパでは、温泉は療養のためだけに用いられています。

すぐ近くには有名なジャコブの梯子の彫られた大寺院があり、両方の丘にはさまれた街の造りはローマ風で、街の道は石だたみで遺跡の様な感じでした。普通の観光と違うので、余り多くを見ないで中央にある衣裳博物館に行きました。この博物館はどういうわけか、案内書には書かれていませんでした。昔は貴族が住んでいたとかで、建物の中は住んでいた人達の生活が想像できる様でした。地下室に目的の衣裳があつたのですが、数千年前のものから現代エリザベス女王が着用されたものに至るまで、実に見事に保存されています。前回にヨーロッパ各地で見た美術館や博物館の服飾の歴史と全く違うものを感じました。それはイギリス独自の一貫された思想がありました。衣裳の事では、又いつかお話ししたいと思います。

その日はChristophe Hotelに泊つたのですが、約半世紀前に建てられたもので内部は全部木造、

階段には赤い絨毯が敷かれ、迷路めいていて、自分の部屋に行くのに迷つてしまいます。サロンに中世の立派な椅子があつたので座つてみたら、底が抜けてひっくり返つてしまいました。元通りにしておいたのですが、そこで又、イギリス人気質を見た様に思います。古いものをととても大切に、ほこりにしています。ホテルの部屋も昔のままで床はきしみ、暖房はなく、マントルピースの中に小さなガスストーブが燃えているだけなのです、静かで物音のしない部屋にいますと、旅人の孤独がひたと胸にせまる様に思えます。次の朝早々に食事をとってプリマスに出發しました。南端の港町です。

プリマスからロンドンにかけては高級別荘地が続いています。パースから港町へ行く道は、エクスムア高地の草原に果てしなく続き、両側のなだらかな丘には真冬だといふのに羊の群れや馬が放牧されていました。時折り通り過ぎる村や小さな町、苔むした城壁や岩がくずれ落ちた古城など、まるで中世の絵画を見ている様な錯覚を覚えます。アングル人が支配したこの地の爪跡の中に、社会、経済、生活、環境と共に前日見た衣裳の歴史との関連と、多様化ファッションの現代と今後を考えて、興味深まるものがありました。

□ある集いその足あと

神戸コンサート

オーケストラ

潮崎 満

（神戸コンサートオーケストラ指揮者）



コンサートをひかえての練習風景

四五年の春友人のO氏とお茶を飲みながら色々音楽談義に花を咲かせたが、そのときふと大阪や京都には立派なオーケストラがあるのに神戸にオーケの一つもないのはおかしいではないか、県や市がやらないのならこは一つ我々の手で、せめてアマオーケでも作ろうではないかということになった。さて実行にうつすとなると仲々容易ではなかった。人あつめをどうするか、楽譜、練習場、大きな楽器をどうするか。正直なところやり

始めたものの自分でもはつきりとした自信はなかった。それでも何とかなるもので音楽仲間たち約三十名程の協力がえられ、何とか演奏会にもつていける見通しがついた。そこで四五年九月二七日ラジオ関西ホールで第一定期演奏会としてモーツアルトのディベルタイメント、ヴィヴァルディの「四季」、ロッシーニの序曲「絹のさざはし」、モーツアルトの交響曲第四十番というプログラムで演奏会を開いた。結果は仲々の好評で神戸新聞に大きく取り上げられた。第二回はやはりラジオ関西で四六年五月十六日に開いた。このときはテンパニーは神戸市消防音楽隊で借りた。

こうして二回演奏会を開いたものの未だきまつた練習場がなく、八方手をつくしてさがしてみてもおいそれと見つからないので困っていたところ、県民小劇場が音楽、演劇の練習及び発表の場所として広く一般に公開されるということを知ったので早速県民課に申込みに行った。その結果月二回第二、第四の火曜日の夜定期的に貸してもらえるとということで一応練習場の問題は解決することになった。だがコントラバスやテンパニーのような大型楽器に関しては我我の方としては県の方で練習場附属の設備として貸与してもらうこ

とを望んだものの、そういう計画はないということなのでやむなくとほしい会計から楽器店にたのんでテンパニー一對とバス一本を月賦で購入し劇場におかせてもらうことにした。こうしてオーケとして貧弱ではあるが一応のお膳立はととのった。その後の活動は四七年四月十七日神戸市主催の文化小ホール開館記念音楽会の出演、翌十八日は第三回の定演、四八年四月二一日は第四回の定演を行なった。私は将来このオーケを発展させていくためには何よりも一回一回の演奏会を充実したものにする努力が一番必要であると思う。然し我々の力には限界がある。この限界をこえるにはどうしても県なり市の援助が必要ではないか。

練習が終ったあと近くの喫茶店に立寄って一時間あまり雑談に時をすごす（練習のときはあまり口がきけない）、これが楽しいひとときとなっている。そのときの常連は釜田（セロ）峰松（バイオリン）辻（指揮・フルニート）岸本（オーボエ）角（テンパニー）等の諸氏である。オーケストラという言葉は、大きくて演奏が終わったあと酒をのんでトラになるからオーケストラ、それがなまってオーケストラになったという珍説があるが何だかわかるような気がする。楽しいオーケストラである。

WIDE WIDE JAZZ

'73 KOBE JAZZ FESTIVAL

神戸ジャズ・フェスティバル

日本のトップジャズメン総出演による関西初のジャズ・フェスティバル〈神戸〉で開催

●12.15(SAT) JAZZ IN JAPAN P.M.5:00

●司会 いッノ テルヲ

●南里文雄

●蘭田憲一と

ディキシークィングス

●北村英治クインテット

●〈ゲスト〉世良譲

●八城一夫トリオ

●渡辺貞夫カルテット

●神戸ディキシークランド

ジャズ協会

●12.16(SUN) TODAY JAZZ SCENE P.M.1:30

●司会 いッノ テルヲ

●日野皓正クインテット

●山下洋輔トリオ

●渡辺貞夫カルテット

●宮間利之とニューハード

●前売券

指定席/¥1,500

自由席/¥1,200

●当日券

指定席/¥2,000

自由席/¥1,500

●市内

各プレイガイドにて発売



神戸文化ホール

神戸市生田区楠町4丁目26 ☎078-351-3535

□れんさいずいそう(11)

ああ結婚

楠本 憲吉

俳人

え・貝 原 六一

〈行動美術協会々員〉

結婚の秋たけなわである。この秋は、三分間に一組のカップルが生まれるというラッシュぶりであるとか。

昔は東男に京女というのが理想の組合せであるが現今は文科女に理科男であるそうなる。

人生の四大儀礼といわれる「冠婚葬祭」も次第に簡素化・合理化されてゆくことだろうが、それでも「冠婚葬祭」という本が爆発的に売れ、大安、先勝、友引などの吉日の式場や新婚旅行の混みぶりは大変なもの、まだまだ縁起をかつぐ人が多いわけである。

(竹内裕氏の説によると、戦後のベビーブームっ子たちが結婚適齢期に入ったため、ここ数年、この結婚ブームは続くとのこと。実際、昭和四十七年に誕生したカップルは軽く一一〇万を突破、年間一〇〇万組突破の結婚数はまだまだ続くだら



うとのこと。)

それにしてもひとはなぜ結婚するのか。

いわく種族保存本能、いわく同棲本能、いわく性本能、いろいろ高説があるようだが、ただ漫然と社会的慣習、まわりのひとがみんなするから自分たちもするという慣習順応の一結果に過ぎないのではないだろうか。とすれば独身という自由の犠牲はあまりにも大きいし、一人の男・女を選んだためにそれ以外の絶対多数をあきらめねばならぬという代償はあまりにも高価過ぎはしないだろうか。

結婚とは、要するに、慣習に反逆できぬ意志薄弱者の自ら求めて享受する社会的桎梏であり、人間の孤独に耐えることができぬ先天的な寂しがり屋の飢餓を医すための一種の救済制度ではあるまいか——などと考えたくなってくる。

固いことはともかく、要するにひととは寂しいから結婚するのであって、結婚式はそのセレモニーだといえよう。

それでいて結婚の経験者であるはずのおとなが、さて、他人の結婚式に招かれた場合、どうしたらよいかという相談を受けることが多い。

まず案内を貰って出席できないときは、必ずその理由を書き送ることである。出席の場合もお祝いのひとことを書き送るとよい。そして御住所、御名前などの御を消し、先方の宛名の下に「行」があれば消して「様」にすることである。

結婚祝いには新郎新婦に喜ばれるものが最高だが、予算を言って希望の品を予め聞いてそれを贈るのも合理的でよい。私は硯箱を贈ることにしているが。結婚祝いが式当日になってしまったときは、品物よりも現金にすべきである。お祝いの水引きは必ず結び切りにすべきである。

披露宴の入口に立って客を迎えている新郎新婦をつかまえてくどくど挨拶をしているひとがあるが、あれはやめた方がよい。ただ「おめでとうございます」だけでよい。

披露宴に招かれた未婚女性は花嫁より豪華な衣裳はつつしむのがエチケットである。普通、正式礼装は色振袖ということになっている。また主役の花嫁とまぎらわしい純白のドレスは着るべきではない。

来賓として挨拶する場合、新郎、新婦に席を立たないよう言っておけるとよい。そして挨拶は三分以内にとどめて貰いたい。

乾杯のとき、お酒を飲めないひとが水で乾杯する風景をよく見掛けるが、あれは「水盃」といっ

て別れの象徴でよくない。飲めない人もコップに口だけはつけるとよい。

披露宴の席では知らない人同志でも、積極的に話しあうべきである。少くとも両隣りのひとに、自己紹介ぐらいはして楽しく話し合うのが招かれた者のエチケットであろう。

食事の速度は早過ぎても遅過ぎてもいけない。まわりの人の食べる速度に合わせるべきである。ビールやお酒をついで貰うときは、コップを持ち上げない。テーブルに置いたままがよい。またナイフ、フォークを落しても拾わない。ボーイにまかせておく。

結婚式はセレモニーであるから、忌みことはや禁句がある。

別れる 去る 破れる 出る 戻る くりかえす 帰る 離れる 切れる 嫌う あきる 冷える さめる うとむ 退く 死ぬ 病む 憂える 苦しむ 悩む 枯れる 亡ぶ 敗れる 逝く 流れる 倒れる 落ちる 傷つく 失う などなど。

また重ねことばやくりかえしもいけない。
ふたたび 重ね重ね またまた 且つまた など また 度々 返す返す 重々 二度 再度などなどである。

新婚旅行に発す新郎新婦の見送りもわざわざ駅や飛行場へ行くことはない。おかげで駅の待合室や空港ロビーが大混雑し、私など、しばしばその被害を蒙っているうちのひとりなのであるから。

菊の香や新郎新婦珠のごと 憲吉

□れんさい随想〈12〉

ブラジル

無宿

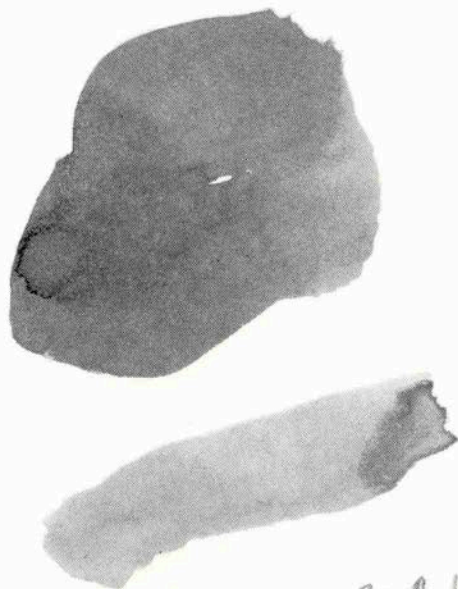
津高 和 一 (絵と文)

△画家・大阪芸術大学教授▽

これは一度外国へ出たものなら必ず身に覚えのあることだった。日本の日常生活の中で、わけのわからないいら立ちや、無色透明だが息苦しいほどの眼に見えない雑然とした圧迫感などが、まるで風に吹かれて飛んで行くように霧散飛消することを体験したことだと思う。

また、それとは別に、だれに頼まれたわけでもないのに、自分が日本国や、日本人を代表していまここを歩いているという錯覚をしたり、或はそう信じこんだりすることであった。体中は勿論、背広の内ポケットとか、ズボンの尻のポケットにまでインスタント日本を忍びこませていることに時おり気づくからであった。

あれほど嫌悪を感じていた日本の現実の醜悪さ、がらりと裏返しナショナリストに早変わりするから奇妙だった。これは日本の風土のシミのよ



うなものである。この状態は日本人であることのある意味の証のようなものであった。

自由自在を身上とする僕にしても、その圏外に居れなかった。いささか菌がゆく思ったものである。

最近の海外旅行の頻度は、或はそんな余裕を与えなくなってしまったかもしれないが、少なくとも僕のような年代の者にとっては、このことは必ずといってよいほどいつもそいつの洗礼をうけた。戦前、戦中、戦後と、ふりかえれば下手なスライドの映像のようにゆがんんだり、傾斜しながらいろんな場面の幻影が点滅するのである。また、芸術家と称する人種は中南米地方へはあまり出たがらない。それというのもヨーロッパのような古典文化があるわけでもなく、北米のような目新しい芸術の展開もない。原始と文明が背中合わせの国

には興味がないらしいのである。

僕の場合はこの粗野で、荒涼とした自然がむんむんするほどに身近に感じた。中南米の風が肌に合うのかもしれない。

そしていつもきまって定宿にしていたのは、サンパウロの日本人街にある安ホテルである。黒人たちも周辺には多く住んでいたし、街はお世辞にもきれいだとはいかぬ。だが慣れるとこども捨てたものではなかった。遠慮がなくて気楽この上もない。ロビー？といつては聞えはよいが、内容は洋風相場というところだろう。そのくたびれたソファに腰を下していると、アメリカ映画の西部劇のホテルのことを思い出す。

明治時代の新聞のような粗悪な紙質の邦字紙などを所在なく黙読していると、一層それが身にしむのである。

奥地からやって来た宿泊の人々が陽焼けた顔で用件を話したり、ジャンパー姿の青年が黙々と新聞を読んでいる風景など、その動静の中にもなんとはなしに一抹のベールが漂うのを感じたりした。僕は聞くとともに、このロビーを溜り場にしてゐる常連の宝石の仲買人や、セールスマンの話をぼんやり聞いた。

昔は、パタタ（馬鈴薯）や、トマテ（トマト）で一山当てた人々が、無難作に大金の札束を新聞紙にくるんで街の料亭の棚にほり上げて、それがなくなるまで豪遊をした話など聞いたものである。

そのようなことはいまは昔語りで、現在の二世たちは着実に腰をすえて仕事をしていた。一世たちもまるで当時のギャンブル気味の掠奪農業とは無縁になっていた。この千載一遇の大儲けの大金

を何日かで蕩尽する豪気？さは、広漠とした原野を何日も旅行をしていると、その気持ちが解るようにもおもえたものである。

虚飾もなく先ず生活が先行した。なにをやるかと勝手である。芸術もまたその例に洩れなかった。

日曜日の午前中、ブラッサ、レプブリカ（公園）では、ヒッピーたちが手製の皮製品を売ったり、古切手の交換、化石や、宝石の断片を屋台に並べて買手待った。日曜画家たちが自作の絵を通路に並べて、その横で立ったり座ったりしていた。

ここはヨーロッパのバリの蚤の市とはまた違った風景であった。中にはレッキとした画家の奥さんが自分の描いた絵を売っていたりした。

大都市のサンパウロとは思えないほどの静かさは、また日曜だからといって出歩く人もそんなにいないからであった。

誰もがマイベースなのである。あわてる国の、あわてている人々に見せたいくらいのものであった。それにしても日本からの距離は世界最長だった。アンデスの太平洋岸から、大西洋岸までのコースをよく利用した。古代メキシコのアステカ文化と、ペルー、ボリビアのインカ文明が開花した眼下の縞模様を俯瞰しながら、越えてきたアメリカの原野のインデアンたちのことなどがちらつくのである。赤茶けた巨大なアンデスを通過すると、もうブラジルの密林が眼下に展開してくる。アマゾンの支流が蛇行してピカリと光る。いずれまた再会するブラジルの友人たちのことがぼつぼつ実感として頭の中をかすめる。そしてまた無宿人のようにブラジルのあちこちを歩いている僕の姿が、ぶっってくるのである。



5ヵ月間 モロッコ 滞在の記

中西 勝 〈画家〉



日本を発ったのが四月三日。のみの市で骨董品を買いあさりながらパリ、マドリッド、リスボン、カサブランカまでは飛行機。カサブランカからはレンタカーでマラケシへ入りました。マラケシでは、日本でいう「カスバ」のまんなか一軒家を借り、五ヵ月間絵ばかり描いて暮らしました。

マラケシにはジャマイハナという大きな広場があります。ヘビ使いや漫才師、ハト使いにロバ使い、貧しい一家が笛やら太鼓で踊り歌い、あるいは気がいじみた男がバババン、バババン、何をしているのか黒山の人だかり、ほかにもまじない師や語りべなどいろんなのがいて、そこをチリリン、チリリン赤い服を着た水売りが回っている。のみの市は、もう古くて使いものにならない電池や空きカン、売れそうにないようなものをいっばいに並べている。

街はずいぶん入りこんでいて、みやげもの屋とか、カバンを作ったり、太鼓を作ったり、いろんなものを作っている店がいっぱい。全部手づくりですよ。そこを背中に皮を山と積んだロバが歩いていく。

とにかく街に出ると画題になるものがそこいらじゅうにあるわけです。だからなるだけ街を歩いて、スケッチしたり、写真を撮ったり、それを家で絵に仕上げてました。

日本から来た手紙には、³¹°Cもの気温で今年の夏はアツクテ……とあるんですが、マラケシでは⁴⁸°Cまで上がったこともありました。それでも湿気がないから全然苦にならないんですね。

夜になると、またジャナイハナに出かけます。黒人がネ、十人くらい並んで彼らの太鼓をジャダダンダンダン、ダカダンジャンジャン……エンエンとやっているんですよ。ジャマイハナに近づくとも遠くからでも、そのうめくようなウナリを感じて。生命感に満ち満ちた、すごいヴァイタリティを持ったものでした。

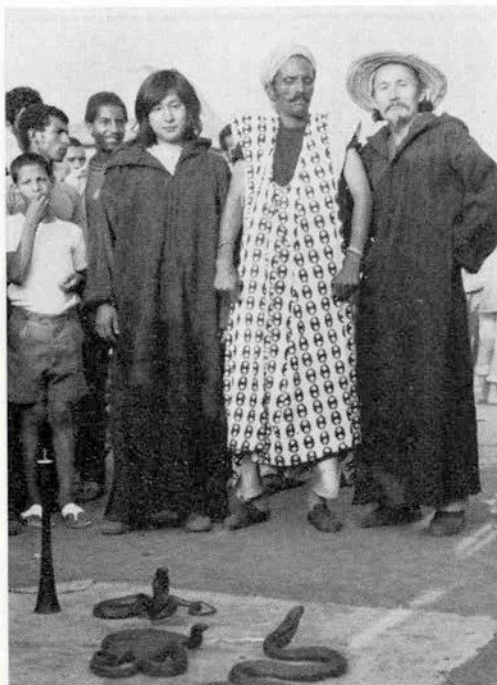
夜はそこでごちそうを食べたり、お茶を飲んだり、親しくなった友だちとしゃべったりしてすごしました。肉はほとんど羊の肉ばかりでクシに刺したシシカバブ、それにホブサというパン。果物がすごく安くて、これがまたオイシク。メロンの大きなのが百五十円くらいで買

えます。

街にはタクシーもありますが、クチという二頭立ての馬車が走っているんです。ジャマイハナで毎晩十二時ごろまですごし、帰りにはそれに乗ってポッポポッポと帰るんです。

外人のヒッピーもいましたし、旅行者はドイツ人なんかが多く、日本人もチヨイチヨイ来ましたね。僕の家に東大の三年生のゴトウくんというのが二十日ほど居候したんです。彼はひとりで旅行していたんだけど、世界史にくわしくて、モロッコの歴史なんかもよく知っていたから、これはいい先生ができたというわけで。ちょうど僕たちの子どもくらいの年だったから、親子だというとみんな信じていましたよ。

むこうでマリワナを吸ったんですよ。タバコに巻いたのを哲学的な顔をしてみんなで回し飲みしました。現われてくる幻覚は人によって違うんです。性格によ



って違うし、その時のからだの状態にもよるそうですね。恐怖感におちいる人もいれば、広っぱが花園に見えて花を摘むマネを始めた。なんにもわからなくなる人もいるらしいし。僕は二時間の間に、白や緑や紫やいろんな色が無限に出てきて、万華鏡みたいに刻々変化して走る線を見ました。

気分は全然悪くならないし、意識もはっきりしていて回りの人がしゃべっていることもちゃんと理解でき、覚えていたんですよ。それでいて目まぐるしく幻覚は浮かんでは変化していつて。あれを絵にしたらおもしろいものになると思いましたね。ヒッピーたちはそこいらじゅうで吸っていました。そういえば、むこうで買った皮のコートを着て、大きな袋を下げ、帽子を被った私の姿はヒッピーも一目置く、ちょっとしたものでしたよ。(談)



マラケシにはジャマイハナという大きな広場があり、ヘビ使い(写真上)などの見世物や、みやげものを売る店(写真右、下)が出ている。

オリエンタルホテルのクリスマス グランドパーティ'73

12月22日(土) 昼夜2回



美川 憲一



黛 じゅん

お問い合わせは 078(331)8111

市長選とこの一年

小島 輝正 〈神戸大学文学部教授〉

角南 猛夫 〈株式会社角南商事社長〉

木村 勝 〈神戸新聞社会部長〉

★インフレに終始したこの一年

角南 経済問題から今年を展望しますと、春に大幅な賃上げと金利の引き上げ——これは四・二五の公定歩合が七パーセントに引き上げられたんですが——があった。

もちろん量的規制もあわせて行われたんですが、いっぺんはずみのついた景気の過熱は容易におさまらず過剰流動性からおこる物価上昇、需給のアンバランスによる物不足、インフレを懸念した買占め、これが今年の一歩大きな問題でした。企業サイドからいいますと大巾な賃上げ、金利負担の増加、それから外部不経済（公害防止関係の費用）負担増にもかかわらず、決算発表をみますと思ってもかけぬ好決算となっています。神戸の主力産業である造船も好況だったし、鉄鋼も好況だった。

木村 物価、インフレの問題が家庭の主婦を悩ませていますね。毎日取材に当たっていても、見逃がして済ましてはおられないということで、アプローチを色々しているのですが。元凶は日本列島改造論による土地の問題だといわれていますがね……。

角南 現在の状態はまさしくインフレでしょうね。しかし、インフレ抑制は金融だけを引き締めても難しいのじゃないかな。今のようにつまみ食いを行っていると、恐らく、暮から来年の三月にかけてかなりの倒産がおこるの

じゃないかと思っています。大型予算が一方にある限り、いかに金融だけで引締めても駄目だと思います。今は、とにかく、過剰流動性を吸い上げて、インフレを抑えようということをやっているんですが、金融引き締めや量的規制だけではいまだに卸売り物価も下がる気配はありませんね……。

木村 一般には来年の春には今までの反動で不景気の波がくるんじゃないかという見方をしていますね。

角南 そうですね。春頃には景気は沈静するのじゃないですかね。今年は神戸には円の高騰が、フロートインゲが一番影響があったんじゃないですか。労働集約的な産業は発展途上国との競争で非常に輸出がしくなりました。西脇のギンガムなんかこの前の円切り上げ以来、内需に転換したおかげで国内の好況に支えられて輸出の減少をカバーしているようですがケミカルシューズは発展途上国の低賃金、低コストにおされて、製品やデザインの高度化をやっています、相当苦しいんじゃないかと思っています。

それと、目立っているのは、円高を見越しての造船会社に対する外国船主の発注の増加で、造船界は円切りの打撃を乗り越えて非常に好況です。鉄鋼も不況カルテルから一転して非常に好況だし、輸出の引き合いが多いので、内需をおさえてまで輸出することはできないので国内に回している状態ですね。品薄ですね。結局、高度の技



角南 猛夫さん

小島 最近紙がないといわれていますね。おかみさんがトイレットペーパーを買いに走るなんて、半年前までは予想もしなかったですからね。

木村 うちにもトイレットペーパーで主婦の方から電話がかかってきてすごいですよ。あっちこっちとスーパーマーケットに走るけれど全然ストックがないと……。



小島 輝正さん

電話で主婦の生活の叫びみたいなのがずいぶんあるんですね。今までは使いすての時代ということがいわれてましたけれど、最近になって資源には限度があるという考え方が出てきましたし、政府も物資節約時代に入るとかいつてますね。トイレットペーパーを買いに走るというのも心理的に戦時中の苦しい思い出が中年層以上に出ていることじゃないかという気がするんです。だから、思惑でどんどん買っちゃう。そのために消費者が自分で自分の首をしめるような結果を招いているような印象が強いですね。

角南 紙をつくるにしても製紙工場は、廃液の処理装置をどうしてもつけなければいけないし、新しい工場立地をみつけることが非常に難しい。さらに一人当たりの紙の消費が非常にふえているということもあって、紙の需給のアンバランスが永く続きそうです。そこでそれを見越した消費者の買い占めか、あるいは、中間の売りおしみか、そういうことが紙不足に拍車をかけているのではないのでしょうか。とにかく、総てのものが不足の時代ですね。石油にしても中東問題があり大変だと思っていますね。

小島 石油とかエネルギー源とかは、もっと長い目でみて根本的な対策をたてないと、どこかで、ギョツと締めつけられてしまうとうとうにもお手上げになってしまう気がしますね。

角南 一般にはさきゆきインフレということで、金でもつよりも物とか土地でという考えから、実際に必要と思わないものまで買われておる状態ですね。

小島 ものがなくなっていく状況にもつくれん、買おうにも買えんという状況が外圧としてこないとチョット歯止めがかからんという感じがですね。

角南 金をいくらためても物の値上がりの方が早い、ということから衝動買いというか、目先の手軽く買えるものにお金を使い果している感じで、これは非常に問題だと思っていますね。やっぱりストックマインドがないとね。

いけませんね……。

小島 ストックした方がいいと考える心理状態が生まれ
ないですね。

角南 成長より福祉ということが、今、神戸だけでなく
日本全体でいわれています。物価問題、土地の値上り、
環境汚染の問題がクローズアップされ、企業の生産を伸
ばすのを最も優先した時代から、今や、総ての企業が地
域社会に対してどの程度貢献しているかを問われる時代
ですね。もちろん公害産業は論外ですし、企業のもって
いる厚生設備でも一般に開放すべきだということがいわ
れる時代ですね。

★「保革激突」の市長選

木村 神戸市長選挙の大方の予想は、昨年十二月の総選
挙のとき、革新票が三十四万、保守票が十八万というこ
とで、よくいって四分六をチョット縮める程度かなとい
う印象だったんです。けれどもフタを開けてみると五十
四対四十六の比率ですね。革新へ行くべき六万票が保守
に行ってるんですよ。これには色々な要因があると思っ
てですね……。

小島 すいぶん投票率が高かったですね。六十パーセン
ト近いなんて今までにないんじゃないですか。前回の倍



木村 勝さん

近いですね。まあ、あれだけ選挙合戦をやったんだから
市民の関心が高まったといえはそうに違いないだろう
けれど……。票からみると宮崎さんの方も危なかったと
いうことでしたね。

木村 内容的には保守が勝ったといえるんじゃないかと
思いますね。

小島 そうもいえますね。

角南 まあ、現職の強みということでしょね。だけど
保守候補の砂田さんが非常に追い上げましたね。保守の
最後の砦を何とか守らなければならんという有権者、特
にJICの積極的な活動が自民党の全力投球とあいまっ
て、非常に追い上げたんでしょね。宮崎さんが当選し
たのは現職の強みと、いつもいわれることですが、自民
党の都市政策のまずさのため、いいところまで追い上げ
ても抜き切れなかったということじゃないかと思ってい
ますね。だけど、投票率が高かったということは、有権者
が今までよりも大変関心を深めたということと、現体制
維持を希望する人がかなりいたからだと思います。それ
は東京都議選をみましても、あれだけ減るといわれた自
民党が、五十一議席も守れたということにも伺えると思
いますね。

木村 何というか、日本人の妙な平衡感覚みたいなもの
があるような気がするのですがね。ズツと左に行きそう
になると、また、右へ戻るといふね。

小島 確かにそれはありますね。

角南 今度の市長選でも論争の的になっていた空港の問
題なんですけど、神戸の発展のためには空港をもつべきだ
という意見と、騒音公害があるという意見とが対立して
いるままですね。

小島 しかし、伊丹があんな調子だからどうかにつくら
ないと思うがなと思うけれど、もっと技術が進歩し
て空港を都心からかなり遠く離れていても速く行けると
ころにつくらないと、なまじつかなところへつくられた
らかなわんですわ。

角南 市の繁栄ということからみれば公害がなければ空港をもつてくるべきですね。

小島 どの位、公害を抑制できるかが問題ですね。今の伊丹の近辺はもう住めたものじゃないですかね。

木村 立地条件として一番効率的なのは神戸沖ですね。

小島 ともかく宮崎さんには、福祉、環境、文化という三本柱を地道にやってもいいですね。

角南 今度の選挙で感じたんですが、有権者の投票がイジーナムードに流れてはよくないと思いますね。今度の市長選で非常に投票率が高かったというのは市民の意識や関心が高まったということでそれは結構なんです。共産主義国家にくらべて自由国家である日本の良さというものをもっと考えるべきだと思いますね。

木村 この選挙の結果、野党が与党になった実験場ができたという意味で、本当に政治の新しいパターンというものを見せて欲しいと思いますね。その一番基本になるのは、地道ではあっても神戸市民の幸せにつながるような地方自治、地方行政のあり方であって、それを模索して欲しいと思うのですよ。

★革新市長誕生に象徴された一年

木村 天津市との間に友好都市提携が結ばれましたが、五月の段階で廖承志さんがこられて、宮崎さんが中国へ行く話が決った。中国の都市と友好都市提携を結んだのは神戸が初めてですね。

小島 そうですね。

木村 それを追っかけて京都が西安に申し入れをしています。

小島 神戸文化ホールができましたが、あれは今までなかった方がどうかしているんですね。

木村 オーブンする前になかをみたのですが、仲やりっぱなものです。

小島 りっぱですよ。ホールの設備には色々と最新の技術を取り入れていいですね。場所も最初は心配して

たんですが、結構いいじゃないですか。

木村 これから市民がどういう具合に使って行くにかかっているんじゃないですか。器はできたけれど、さて中味はどうするかということですね。

小島 そうですね。問題は利用の仕方です。

木村 八月一日には北区が発足しましたね。

小島 面積としては市内では一番広いんでしょう。

木村 まだ色々な面で体制が整ってませんね。あの地区の住民が特に問題にしているのは、交通が不便だということと、医療、教育関係ですね。

自然には恵まれているけれど、文化や娯楽の施設がないですね。環境調査をやってみますと、自然が素晴らしいという点では満足しているようです。

今年は年頭に福祉元年だとか、経済の年だとかいわれていたのですが、一般的にはそういう見方が当たっていたような気がしますね。いずれも問題提起に終わったんですが。神戸についていえば、色々なことがありました。革新市長が誕生したということが最大の焦点であり、これに尽きるような気がするんですね。

小島 いろんな問題がそこに象徴されていますね。

角南 おっしゃる通り、十月末の選挙が一つの山場でしたね。

全般的にはインフレ含みではあるけれど好況に終始した年であったといえるのじゃないですか。

小島 そうなんです。とにかく、デパートや商店街の売り上げをみても何てったって景気がいいし、消費力が上っている。

角南 企業の収益が好調であったのも、根強い消費者の購買力が絶えずこの一年の景気を支えてきた結果だと思えます。

(於 竹葉亭)

経済ポケット ジャーナル

★神戸市長に宮崎辰雄氏 再選

十月二十八日、全国注視のうちに選ばれた神戸市長選挙は即日開票の結果、社会、公明、共産、民社四党の共同推薦を受けた革新系無所属の宮崎辰雄氏（六二）が現職の強味をみせ、自民党の推す砂田重民氏（五



再選した宮崎市長

六）を破って再選された。

七候補の乱立でスタートした同市長選は最初から宮崎、砂田両氏の争いにしては、これまで七回行われた同市長選はいずれも低調だったが、今回初めて保守革新を二分する激突で終盤になって盛り上がり、投票率もこれまで最高の五〇・〇九％（二十二年四月）を上回る五九・〇二％となった。



宮崎氏の当選によって東京、川崎、横浜、名古屋、京都、大阪について神戸も革新市政の仲間入りをしたわけで、太平洋側百万都市首長の完全革新化となった。

十一月一日初登庁した宮崎市長は「具体的政策が百八十度変わることはありえない。むしろ従来の政策を強化していく」として、神戸市環境条例に加えて消費者保護条例、福祉条例を制定し、福祉中心の行政を進めていく考えを明らかにしている。

★第三十一回西日本経済同 友会大会開かる

「新しい時代の企業の使命と実践行動」をテーマに第三十一回西日本経済同友会大会が十月十九日、神戸オリエンタルホテルで開かれ、関西、中部、北陸、中国、四国、九州各地区の会員二百七十五人が出席した。大会は樋詰誠明関西経済同友会代表幹事（大丸副社長）の問題提起を受け、松

下正治関西経済同友会代表幹事（松下電器産業社長）の司会で三時間にわたるパネル討議を行った。討議のあと大会宣言として①企業の本来の使命は良質な財貨・サービスを社会に供給することによって、社会福祉の増進に寄与することにある。この使命に自信と誇りをもって正当な利潤の確保につとめる。②企業活動のもたらす社会へのマイナス効果は自ら解消し、社会に不当な迷惑をかけない。③企業の社会的責任遂行策の実現に努力する——などを採択した。

★砂野仁氏、川重会長を 辞任

砂野仁川崎重工業会長は十一月いっばいで会長を辞任し、相談役に就任した。

砂野氏は四十四年四月、川重の社長として川崎航空

機、川崎車両との三社合併を実現させ、同十一月から会長に就任していた。



砂野 仁氏

相談役に就任後は神戸商工会議所会頭など財界活動に力を入れていくという。

★三ツ星ベルト社長に 小田欽造氏就任

三ツ星ベルトは十一月三十一日の定時株主総会後の取締役会で、小田春治会長が相談役に、岡田重吉社長が会長に就任し、後任として小田欽造専務が社長に昇格することを正式決定した。小田氏は昭和二十二年堺高工卒、二十五年入社。神戸市出身、四十八歳。

★ KOBE オフィスレディ ★



鎌田 るみ子さん（24歳）
株式会社サンチカ

その人にしかない独自の雰囲気を感じるとき、あここの人はおとなだと思ふ。砂女に感じる落着きは、きのうや今日、身についたものではなく、勤続6年になるという、仕事でかもし出しているのだから。それは、若さのもつ脆さと一体であるのだが。感謝が許される期間は短い。急げ！（神戸女子商業高校卒）